

平成18年10月31日

平成19年3月期中間決算の概要について

シロキ工業株式会社
(輸送用機器 東証、名証第1部上場)
(*百万円未満以下切り捨てております)

1、平成19年3月期連結中間決算の概要

9月30日現在の当社の連結対象子会社は国内5社、海外6社の計11社で、他に国内に持分法適用の関連会社が3社であります。前期末(平成18年3月31日)比では連結対象子会社が国内で1社、海外で1社それぞれ増加いたしました。これは、国内におきましてシロキ商事株式会社が本年7月に会社分割を行いシロキクリエイティブサービス株式会社を新設し、また海外におきましては本年6月にSWM-GT,L.L.C.(米国)を新設したためであります。

売 上

**[5期連続で過去最高を更新。堅調な国内に加え、
好調な米国、アジアが貢献]**

当上半期の連結売上高につきましては、前年同期比で9.2%増の637億1千7百万円で53億6千4百万円の増収となり、5期連続で過去最高を更新いたしました。これは、得意先自動車メーカーの日本、米国、アジアなど国内外での生産増加に加え、モーターとECU(電子制御装置)を一体化した新型ウインドレギュレータなどの新規開発品の受注増加や、中国での生産体制整備による生産増加などによるもので、日本、米国、アジアの全地域で順調に売上が伸びました。

このことは、この間取り組んでまいりました世界4極市場対応を視野に入れた生産・供給体制構築による受注活動や、高付加価値と競争力強化をはかった新製品開発活動の成果が徐々に現れたものでもあります。

得意先別では、主力のトヨタグループ向けが好調に推移し、前期比20.0%増の447億1千2百万円で、74億5千4百万円増加いたしました。製品別では、新機構・新機能を採用したシート部品や新型ウインドレギュレータなどの新製品効果によってシートリクライナ・シートアジャスタが前期比16.7%増、ウインドレギュレータも前期比9.5%増と好調に増加いたしました。

連結中間決算概要

(上段当中間期、下段前年同期)

売上高:

637億1千7百万円

583億5千3百万円

(前年同期比9.2%増)

営業利益:

11億4千9百万円

6億9千1百万円

(前年同期比66.2%増)

経常利益:

11億9千6百万円

10億9千万円

(前年同期比9.8%増)

中間(当期)純利益:

7億5千4百万円

1億8千2百万円

(前年同期比313.3%増)

1株当たり当期純利益:

8円50銭

2円06銭

海外売上高比率:

25.9%

24.0%

設備投資:

17億4千3百万円

29億4千5百万円

(前年同期比40.1%減)

減価償却費:

26億4千9百万円

25億5千7百万円

(前年同期比3.6%増)

5月12日に発表いたしました期初予想610億円に対しては、4.5%増の27億1千7百万円の増収となりました。

国内売上

国内につきましては、主力のシロキ工業が前年同期比で5.6%増の478億1千4百万円で25億4千3百万円の増収となり過去最高の売上高となりました。これは、得意先自動車メーカーの輸出好調に伴う生産増とともに、「まったくモード機構付シート」やモーターとECU（電子制御装置）を一体化した新型ウインドレギュレータなどの新規開発品の受注増加や、当社製品の装着率の高い車種の生産増加などが寄与したものであります。得意先別では、トヨタグループ向けが好調に推移し、前期比13.3%増の304億2千万円で35億6千9百万円増加いたしました。

5月12日に発表いたしました個別期初予想465億円に対しては、2.8%増の13億1千4百万円の増収となりました。

海外売上

米国につきましては、SWマニュファクチャリング（テネシー州）が、前期比で13.1%増の138億7千7百万円で、16億8百万円の増収となりました。これは、ガソリン高による低燃費の日本車人気を背景に、需要が旺盛な「カローラ」など現地トヨタ自動車向けの生産が好調に推移したことなどによるものであります。

アジアにつきましては、中国では広州白木自動車零部件（広州市）が、前期比8.2倍増の6億3千9百万円で5億6千万円の増収となりました。これは現地トヨタ自動車の「カムリ」向けドアサッシとモールディングの増産およびウインドレギュレータの新規生産開始による生産増が寄与したものであります。タイではシロキタイランド（チョンブリ県）が、前期比51.4%増の15億3千5百万円で5億2千1百万円の増収となりました。これは、現地トヨタ自動車の「IMV」の好調な販売に伴う生産の拡大が寄与したものであります。また、本年6月より新たな主力製品としてドアサッシを現地企業への委託生産により、現地日産自動車に納入を開始いたしました。

地域別売上高

（上段当中間期、下段前年同期）

・日本

476億7千8百万円

451億4千6百万円

（前年同期比5.6%増）

・米国

138億7千4百万円

121億3千6百万円

（前年同期比14.3%増）

・アジア

21億6千4百万円

10億7千万円

（前年同期比2.0倍増）

・合計

637億1千7百万円

583億5千3百万円

（前年同期比9.2%増）

得意先別売上高

（上段当中間期、下段前年同期）

・トヨタG

（70.3%）

447億1千2百万円

372億5千8百万円

（前年同期比20.0%増）

・売上高上位3社

トヨタ自動車

（39.5%）

251億4千万円

210億4百万円

（前年同期比19.7%増）

トヨタ紡織

（19.0%）

120億9千2百万円

89億4千6百万円

（前年同期比34.5%増）

スズキ

（7.6%）

48億6千5百万円

52億4千6百万円

（前年同期比7.3%減）

*社名横の（）内は売上構成比率

主要製品別売上高

（上段当中間期、下段前年同期）

シートクライナ・

シートアジャスタ

（38.5%）

245億1千8百万円

210億6百万円

（前年同期比16.7%増）

ウインドレギュレータ

（29.1%）

185億2千9百万円

169億1千8百万円

（前年同期比9.5%増）

ドアサッシ

（17.1%）

108億6千7百万円

101億9千6百万円

（前年同期比6.6%増）

*製品名横の（）内は

売上構成比率

利益

【営業利益と中間純利益が大幅増】

利益につきましては、営業利益は前年同期比66.2%増の11億4千9百万円で4億5千7百万円の増益となり、また経常利益は前年同期比9.8%増の11億9千6百万円で1億6百万円の増益、中間(当期)純利益は前年同期比313.3%増の7億5千4百万円で5億7千1百万円の増益となりました。

主な増減益要因といたしましては、営業利益段階では主として売上増加による増益効果のほか、徹底した総原価低減活動や海外子会社における収益好転が貢献したもので、前年同期比66.2%増改善いたしました。

海外子会社における収益好転の要因は、米国では鋼材価格値上りが収束してきており、加えて好調な日系自動車メーカーの増産による増収効果や合理化による原価低減が進んでいることなどにより、SWマニュファクチャリングが営業利益段階で黒字に転換いたしました。またアジアではタイが引き続き「IMV」の増産により好調に推移しており、中国も「カムリ」向けの生産を開始し生産が順調に拡大しており、採算ラインに近づいてきたからであります。

経常利益段階では為替差益の減少と借入利息の増加により前年同期比9.8%増と増益幅が減少いたしました。最終損益段階では、減損会計導入による影響と子会社整理損などがなくなったため、中間(当期)純利益は前年同期比で313.3%増改善いたしました。

5月12日に発表いたしました営業利益7億円の期初予想に対し、64.1%増の4億4千9百万円の増益、経常利益4億円の期初予想に対しては3倍増の7億9千6百万円の増益、また中間(当期)純利益1億円の期初予想に対して、7.5倍増の6億5千4百万円の増益となりました。

2、上期の主な取り組み実績

【更なる成長をはかるスタートの年】

当社グループでは、創立60周年の本年を更なる成長をはかるスタートの年として位置付け、高機能・高品質・低コストの「世界No.1の魅力ある製品づくり」はもとよ

主要会社別売上高

(上段当中間期、下段前年同期)

シロキ工業

478億1千4百万円

452億7千1百万円

(前年同期比5.6%増)

SWM

138億7千7百万円

122億6千9百万円

(前年同期比13.1%増)

広州白木自動車部品

6億3千9百万円

7千8百万円

(前年同期比8.2倍増)

シロキタイランド

15億3千5百万円

10億1千3百万円

(前年同期比51.4%増)

セグメント別営業利益

(上段当中間期、下段前年同期)

・日本

8億6千5百万円

7億6千4百万円

(前年同期比13.2%増)

・米国

3千8百万円

1億5千6百万円

(前年同期比 -)

・アジア

5千1百万円

8千3百万円

(前年同期比 -)

・消去又は全社

1億9千3百万円

1億6千7百万円

・合計

11億4千9百万円

6億9千1百万円

(前年同期比66.2%増)

り、一層の経営効率化と企業体質強化に取り組んでまいりました。また、グローバルサプライヤーとして世界4極市場における生産・供給体制確立を一段と加速いたしました。上期に実施した主な取り組みは次の通りであります。

グローバル展開の加速

米 国

ジョージア工場拡張工事着手 (本年6月)

北米第3生産拠点設立(SWM-GT) (本年6月)

・現地日系自動車メーカーの生産拡大に対応

現地日産自動車の量産車種「アルティマ」向け

ドアサッシ生産開始 (本年9月)

中 国

広州白木自動車零部件の生産拡大

・広州トヨタ自動車向け生産開始 (本年5月)

広州白木自動車零部件第2工場建設を決定 (本年8月)

・現地日系自動車メーカーの生産拡大に対応

タ イ

シロキタイランドがドアサッシの新規生産 (本年6月)

・現地日産自動車向け納入開始、ASEAN地区での生産強化

国内事業強化

シロキ商事の会社分割 (06年7月)

・シロキクリエイトサービス新設

・グループ経営の効率化推進

九州シロキ第2工場本格稼働に向け生産準備開始

・来春本格操業開始。九州地区得意先の生産拡大に対応

新製品

新型ウインドレギュレータのグローバル化加速

・中国でも「カムリ」向け生産開始 (06年5月)

3、連結通期業績予想について

売 上

[個別1千億円の大台。連結5期連続で過去最高を更新]

今期の連結の業績予想につきましては、売上高は通期で前期比5.7%増の1,300億円を予想し、5期連続で過去最高の売上高更新を予想しております。これは、米国

における日本車の旺盛な需要は変わらず、引き続き現地生産不足分は国内より輸出で補う形となり、得意先自動車メーカーの日本、米国、中国を中心とするアジアなど国内外での生産台数増加は堅調に推移するものと予想されるからであります。加えて、国内では「カローラ」、米国では「アルティマ」など当社主力製品を装着した量販車種が今秋より立ち上がるため、その新車効果が見込まれるからであります。

国内売上

得意先自動車メーカーの輸出向けの生産は好調を維持し、国内生産は堅調に推移するものと予想されます。加えて、当社製品の装着率の高い車種も堅調を維持し、また新型ウインドレギュレータや新機構セカンドシートなどを装着したトヨタ自動車の量販車種「カローラ」などが10月より立ち上がり、新車効果が見込まれます。このことから、主力のシロキ工業の通期売上高は前期比5.7%増の1,005億円と54億5千万円の増収で、初の1,000億円台を予想し、過去最高の売上高を予想しております。

5月12日に発表いたしました個別業績予想の売上高960億円に対して、4.7%増の45億円の増収を予想しております。

海外売上

米国では、SWマニュファクチャリングが現地日産自動車の量販車種「アルティマ」向けのドアサッシの新規生産を9月より開始し、生産拡大となることから、通期売上高は前期比2.3%増の261億円で、5億7千8百万円の増収を予想しております。

アジアでは、中国の広州白木自動車部品が広州トヨタ自動車の「カムリ」向け生産が順調に推移するところから、前期比4.5倍増の21億円で16億3千2百万円の増収を予想しております。また、タイではシロキタイランドが政治の不安定化の影響により、期初予想より生産台数減の傾向見込まれているものの、通期では前期比23.7%増の29億円の5億5千5百万円の増収を予想しております。

利益

[減益傾向に歯止め。回復基調に転ず]

利益につきましては、引き続き増収効果が見込まれること

連結通期予想

(上段当期予想、下段前期実績)

売上高:

1,300億円
1,230億3百万円
(前期比5.7%増)

営業利益:

32億円
20億1千9百万円
(前期比58.5%増)

経常利益:

30億円
29億8千4百万円
(前期比0.5%増)

当期純利益:

16億円
12億2千1百万円
(前期比31.0%増)

1株当たり当期純利益:

18円03銭
13円34銭

海外売上高比率:

23.9%
23.6%

設備投資:

81億9千7百万円
69億2千万円
(前期比18.5%増)

減価償却費:

57億8千万円
55億7千6百万円
(前期比3.7%増)

主要会社別売上高予想

(上段当期予想、
下段前期実績)

シロキ工業

1,005億円
950億5千万円
(前期比5.7%増)

SWM

261億円
255億2千2百万円
(前期比2.3%増)

広州白木自動車部品

21億円
4億6千8百万円
(前期比4.5倍増)

シロキタイランド

29億円
23億4千5百万円
(前期比23.7%増)

に加え、米国や中国などの海外子会社における収益好転による利益貢献なども見込まれることから営業利益は前期比58.5%増の32億円を予想しております。経常利益は前期比0.5%増の30億円を予想しております。当期純利益は前期比31.0%増の16億円を予想しております。

[通期業績予想を上方修正]

平成18年5月12日に発表いたしました連結業績予想の売上高1,250億円に対して4.0%増の1,300億円に、営業利益28億円に対し14.3%増の32億円に、経常利益23億円に対し30.4%増の30億円に、当期純利益10億円に対し60.0%増の16億円に、それぞれ上方修正いたします。

以 上

ご参考

個別中間決算概要

(上段当中間期、下段前年同期)

売上高:

478億1千4百万円

452億7千1百万円

(前年同期比5.6%増)

営業利益:

7億4千万円

5億9千8百万円

(前年同期比23.8%増)

経常利益:

11億1千7百万円

10億7千5百万円

(前年同期比3.9%増)

中間純利益:

6億3千6百万円

6億9千5百万円

(前年同期比8.5%減)

設備投資:

16億3百万円

23億7千2百万円

(前年同期比32.4%減)

減価償却費:

21億7千6百万円

21億7千7百万円

(前年同期比0.0%減)

個別通期予想

(上段当期予想、下段前期実績)

売上高:

1,005億円

950億5千万円

(前期比5.7%増)

営業利益:

19億円

17億1千4百万円

(前期比10.9%増)

経常利益:

25億円

30億5千6百万円

(前期比18.2%減)

当期純利益:

11億円

6億3千7百万円

(前期比)

設備投資:

43億7千5百万円

43億2千2百万円

(前期比1.2%増)

減価償却費:

47億1千1百万円

47億4千5百万円

(前期比0.7%減)

この件のお問い合わせは:

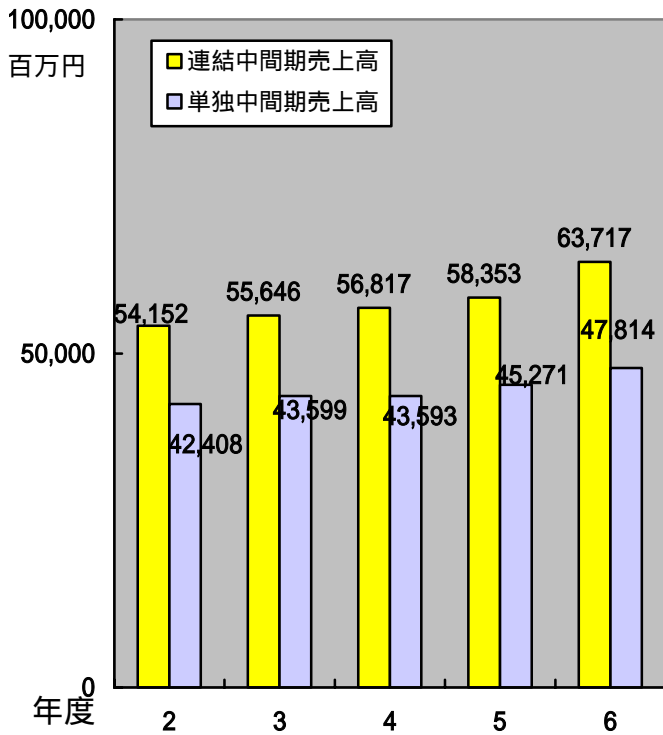
シロキ工業株式会社(0533)84-4691

取締役経理部長 大石
総務部広報担当 眞野 まで

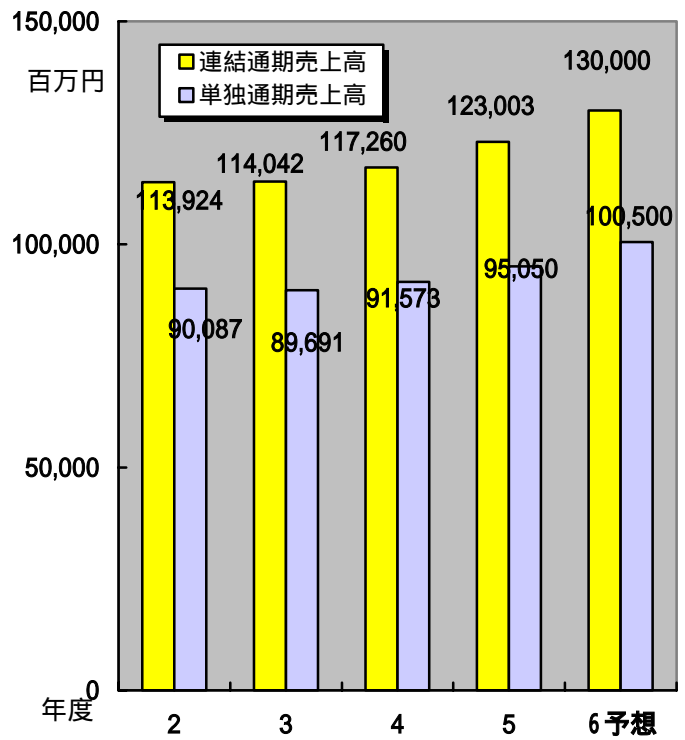
業績推移

シロキ工業株式会社

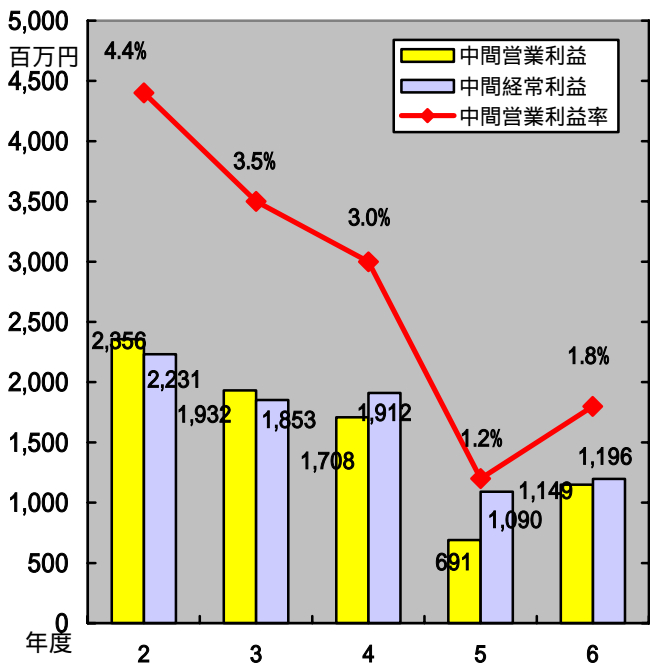
連・単売上高推移（中間期）



連・単売上高推移（通期）



連結利益の推移（中間期）



連結利益の推移（通期）

